

7. 福岡市におけるマーケットバスケット方式による食品中の残留農薬の一日摂取量実態調査(2009)

保健科学課 内山 賢二・中村 正規
小西 友彦・樋脇 弘

平成 22 年度食品衛生研究発表会

平成 21 年度に福岡市内を流通する食品を対象として、マーケットバスケット方式による農薬の一日摂取量調査を実施した。対象農薬は通知試験法である「GC/MS による農薬等の一斉試験法（農産物）」が適用可能な 55 農薬とした。その結果、2 つの食品群より 2 種類の農薬（プロシミドン・メチダチオン）を検出した。検出した農薬の摂取量を算出し対 ADI 比を求めると、いずれも 0.19% となり、今回調査した農薬の一日摂取量は安全上問題のない量であると考えられた。

一律基準（0.01ppm）を超過したⅧ群のプロシミドンについて、どの食品に含まれているのかを把握するため、国内登録のあった野菜（きゅうり・レタス・たまねぎ・キャベツ）について個別食品の分析を行った。

その結果、きゅうりから 0.15 $\mu\text{g/g}$ 、レタスから 0.04 $\mu\text{g/g}$ 、たまねぎから 0.003 $\mu\text{g/g}$ を検出し、Ⅷ群の試料割合に換算するとそれぞれ 0.0089 $\mu\text{g/g}$ 、0.0024 $\mu\text{g/g}$ 、0.0005 $\mu\text{g/g}$ となり、その総和（0.0118 $\mu\text{g/g}$ ）は検出値（0.0152 $\mu\text{g/g}$ ）と概ね一致した。したがって、Ⅷ群から検出したプロシミドンはこれらの青果物由来であると考えられた。